

後期高齢者医療制度を中止し、 廃止を求める請願署名

衆議院議長 殿
参議院議長 殿

2008年 月 日

政府は、75歳以上の高齢者を対象にした「後期高齢者医療制度」を08年4月から実施し、70～74歳の窓口負担も09年4月から2割に引き上げようとしています。新しい制度は、もっぱら医療費削減を目的にしたもので、高齢者に過酷な負担をおしつけ、医療内容を制限するものとなっています。

具体的には、①75歳以上の高齢者を国保や健保から追い出し、すべての高齢者から保険料（平均月額6200円、厚労省試算）をとりたてる、②受けられる医療を制限し差別する「別建て診療報酬」を設ける、③保険料は年金から天引きする、④保険料を払えない人からは保険証をとりあげ、医療を受けられなくする、などです。これまで保険料を負担していなかった扶養家族も、08年10月から徴収されます。

これにたいし、「まさに姥捨て山ではないか」の怒りの声が全国でまき起こり、地方議会でも中止や見直しの決議があいついでいます。

政府は同時に、65～74歳の高齢者世帯を対象に、国民保険料（税）の年金からの天引きを08年4月から実施します。多くの高齢者世帯で、年金の受け取り額が大きく目減りしてしまいます。

そもそも病気になりがちな高齢者の医療については、長年の社会貢献にふさわしく国と企業が十分な財政負担をおこなうべきです。高齢者が安心して医療を受けられ、暮らすことのできるよう、以下の点を強く求めます。

請願項目

- 一、後期高齢者医療制度については実施を中止し、廃止すること。
- 一、70～74歳の窓口負担2割への引き上げをやめること。
- 一、高齢者への医療保険料（税）の年金天引きをやめること。

氏名	住所

全国商工団体連合会

取扱団体